

題名：

「第79回 県立二葉の里病院 オープンカンファレンス」開催報告

内容：

講演タイトル「“みる力”を信じるジェネラリスト -総合診療医という選択-」。これは私が所属している広島大学病院 総合内科・総合診療科のホームページに掲載されている文言です。病気をみるだけでなく、人を見る。そして時には時流もみながら、ジェネラリストという名のスペシャリストとして、広島、そして日本の医療を支える。そのような思いが込められています。ともすれば挑戦的な響きがあるかもしれませんが、我々は地に足をつけつつも、そのような思いで日々臨床、教育、研究を行っております。講演内では「総合診療医とはなにか？そして今後どうなっていくのか？」をわかりやすく説明することを目的に、「総合診療医の役割」、「総合診療医についての制度面での変化」、「広島県における総合診療の状況」、「今後の展望」に分け、以下の通りお話をさせて頂きました。

・「総合診療医の役割」

日本は世界で一、二を争う超高齢社会（総人口に占める65歳以上人口の割合が21%以上）とされます。高齢者の割合が増えるということは、多くの併存疾患（同時に抱えている病気）を持つ方が増えるということを意味します。高血圧、COPD、変形性膝関節症、過活動膀胱…治療中の病気をもっと持っている方も少なくありません。こうなると、各疾患についてそれぞれ別の医療機関を受診されている方が多いのではないのでしょうか。これにより医療費が増えるだけでなく、様々なコストが増えることが指摘されています。国民医療費という観点だけでなく、ご本人はもちろん付き添いの方にとっても、受診する医療機関は少ない方がいいでしょう。つまり、ワンストップでみってくれる医師の重要性が増します。そしてそれが総合診療医です、という形で登場します。端的に表すなら、「総合診療医とはワンストップで多くの問題を解決してくれる医師」、といえるかもしれません。総合診療医には土台となる能力を前提に大きく2つの能力、家庭医的な能力（例：かかりつけ医として common disease を中心に外来診療や訪問診療を担当）と、病院総合診療医的な能力（例：総合病院で働き、診断困難例や複雑困難例を主に担当）を持ち、働く場所に依りて必要な能力を発揮します。総合診療医は病気（生物学的側面）をしっかりとみることはもちろんのこと、心理社会的側面も大切にしております。具体的には、BPSモデル（Biomedical-Psychosocial）、解釈モデルの確認（FIFE）等により、患者さんの状態を多角的に把握することで、よりよい医療を提供することを意識しています。派手ではないかもしれませんが、総合診療医にしかできない関わり方を行い、患者さんだけでなく社会に貢献できる職業であると考えております。

・「総合診療医についての制度面での変化」

2018年開始の新専門医制度で総合診療専門医は誕生しました。私はその一期生として総合診療専門医を取得しました。総合診療専門医を取得するためには診療所などの小規模施設だけでなく総合病院勤務での研修が必要となります。また、小児科として専従で3か月以上の勤務が必要であるなど、総合診療医として幅広い状況に対応する能力を身に着けるために、様々な環境での研修が義務付けられています。また専攻医を経て総合診療専門医を取得するパターンのみでなく、関連した資格からの移行や、特任指導医からの移行などを含め、今では1000名ほどの総合診療専門医が誕生しています。関連学会も複数あり、様々な働き方に依りて生涯学習や学術活動のサポートが得られます。

・「広島県における総合診療の状況」

総合診療医のニーズの上昇を踏まえ、日本においても総合診療医養成の機運が高まっています。2020年からは厚生労働省による「総合的な診療能力を持つ医師養成拠点の形成事業」があり、広島県においても2023年度から採択され、「広島大学病院総合診

療医センター」として、県内8つのプログラムと連携し、広島県全体として総合診療医養成に取り組んでいます。私自身もプロジェクトアドバイザーとして運営に関わらせてもらっております。種々の勉強会も開催しておりますので参加されたことのある先生方も多くいらっしゃるかもしれません。引き続き、診療セッティングに関係なく、広島県全域で総合診療に関わる皆様にとって有意義な情報発信、交流ができるように努めて参ります。

・「今後の展望」

高齢化の進行に加え、医師不足（偏在）も指摘されており、全国的に総合診療医のニーズが高い状態が続くと見込まれます。総合診療専門プログラムの専攻医数は2018年の制度発足時は全国で180名ほどでしたが、2025年時点では年間300名ほどにまで増えています。広島県内の全診療科の専攻医数に占める総合診療専攻医の人数も増加傾向で推移しており、広島県の総合診療は今後加速度的に盛り上がっていくことが期待されます。

この度は貴重な発表の機会を頂き誠にありがとうございました。総合診療の面から広島が盛り上がるよう微力ながら活動していきますので、引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。